北海道新聞 29年6月19日（朝刊）

◆24日に進路説明会

小樽市内の小中学・高校生と保護者を対象に、地元の高校や大学、専門学校が自校をPRする合同進路説明会（市、市教委主催）が24日午後1時から、市民会館（花園5）で開かれる。

早くから将来や進路を考えてもらうのが狙い。国立小樽海上技術学校を含む高校9校と小樽商大のほか、来年度に小樽商業高と小樽工業高が統合されてできる新設校なども参加する。各校は学科の特徴や進学・就職状況、学校生活の様子などを15分程度紹介。高校は個別相談にも応じる。

入場無料。問い合わせは市教委指導室☎0134・32・4111内線529へ。

小樽ジャーナル 29年6月18日

青空に3,040人のランナー！　運河マラソン (2017/06/18)

ツイート

第29回おたる運河ロードレース大会が、6月18日(日)に実施され、色内埠頭公園(色内3)で9:00から、ハーフマラソン(21.0975km)に出場する選手1,383人が、トップを切ってスタートした。

その後、10km(908人)・5km(514人)・2.5km(235人)のコースが、時間差で次々とスタートし、小樽の街を駆け抜けた。

今年は、道内外から3,040人の参加者が集まり、市内の小中学生が多数参加、昨年の64人から235人に大幅に増えた。体力向上のためにと、学校での申込みを可能にした。

市内の高校生や小樽商大、小樽陸上競技協会、小樽体育協会・小樽地区救急法赤十字奉仕団などボランティア566人が協力。様々な場面で大きな力となった。

大会に先立ち、8:00から、小樽商科大学の応援団の演舞が行われ、選手を激励する檄文を読み上げた。佐藤七海団長は、「市民に頑張ってもらいたい」と話した。同応援団は、スタート地点やゴール地点でも、整列して旗を振り声援を贈った。

市内中心部のロードレースコースは、通行止めや交通規制がしかれた。ゼッケンをつけた選手らは、小樽の歴史や文化の息吹を感じながらは、懸命にゴールを目指して走った。

昨年の記録を更新しようと挑戦する人、陸上部や職場・仲間で参加した人など、それぞれ自分に合ったコースで、日頃の練習の成果を発揮した。

子ども達を応援する家族や先生、職場の同僚や知人らが沿道に立ち、熱い声援が贈られた。ゴール前にも、大勢の人が集まり、疲れ果てた表情の選手を励ました。

各コースの競技終了後、6位までの表彰式が行われ、入賞した選手は、笑顔を見せていた。

市内の陸上チームOAJCに所属する石川蘭さん(小5)は、2.5km小学生女子の部で8分52秒で1位となり、「これまでは、お姉ちゃんが1位だったので嬉しい。男子に負けないように走った。800mに出場する時に活かしたい」と話した。

同じくOAJCに所属する塩原叶々愛さん(小6)は、同競技で9分17秒で2位となり、「下りでスピードをつけた。なるべく石川さんから離れないように走った」と話し、2人は仲間で良きライバルだという。

小樽桜陽高校の生徒170人がボランティアに協力。Jチップ回収やサービスドリンクの配布・ゴミステーション・きのこ汁の配布などを手伝った。

初めてボランティアに参加した広島永遠君(高2)は、完走者全員に贈られる完走証を配布する手伝いをした。「これまでボランティアを避けてきたけど、やってみると楽しかった。良い経験となった。今後も参加したい」と話した。

会場では、小樽ビールや小樽あんかけ焼そば親衛隊、揉み解しブースが並び、小樽家庭婦人スポーツ連絡協議会10人ときのこ王国の協力で、参加者にきのこ汁(3,400食用意)が振舞われた。

同会・千葉晴美代表は、「スタッフが温かく選手を歓迎している。小樽って良いなと、来年もぜひ参加してもらいたい」と話した。

他にも、ナンバーカードでの抽選会があり、道外からの参加選手に「遠来賞」として記念品が渡された。

なお、完走者全員の大会記録は、アイ・サム社の北海道スポーツコミュニケーションの「おたる運河ロードレース大会」に、6月20日以降掲載される予定。